

県央の戦争遺産・フィールドワーク（現地学習） ～ 大江の戦争遺跡を歩く ～

講師 くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表 高谷 和生 氏



熊本学園大学14号館前に集まった「戦争と平和コース」の受講生22名。第2回に引き続き講師の高谷和生先生から大江周辺に残る戦争遺跡や記念碑の概略をお聴きし、現地学習がスタートした。

「近代化産業遺産」の建造物（平成19年度・経済産業省認定）

熊本学園大学産業資料館 赤レンガ棟

熊本学園大学正門左手（県立劇場通り）



産業技術史や産業考古学等がご専門の学園大学市原猛志先生からご説明を受けた。

JR熊本駅近くにあった紡績工場施設。イギリス積の煉瓦造、平屋建て、木造キングポストトラスの小屋組として、切妻造屋根を架ける。移築時に鉄筋コンクリート造で補強。当初壁は平側・妻側各1面となったが、隅の柱型や軒蛇腹の造形にみるべきものがある。

文化庁「国指定文化財等データベース」の解説文より引用

明治27年に建てられた熊本紡績の赤煉瓦工場の一部（電気室）を、平成15年に月星化成より譲り受け、翌平成16年に移築復元。この赤煉瓦の工場は、熊本紡績→九州紡績熊本工場→鐘淵工場熊本工場→日華護謄工業熊本工場→月星化成熊本工場と変わったが、戦中を含め100年以上現役工場として活用されてきた。熊本で2番目に古い赤煉瓦造り・木軸構造の建物で、唯一現存している旧軍需工場である。日華護謄工場では軍靴や軍用地下足袋、防毒マスク等を製造していた。

軍施設・陸軍歩兵第十三聯隊跡

歩兵第十三聯（れん）隊兵営跡は、明治8年4月城内二の丸跡に創設。大正14年5月に大江に転営した。

「食堂・酒保所」

熊本学園大学第二体育館・体育会系部室

「主屋内部 旧食堂内部」



12本の丈夫な円柱と梁
桁行31m、梁行約4.2m

参加者の中に当時現地近くに生まれ育っていた方がいらっしゃって、時には兵舎のお風呂が一般の方にも開放されていたというお話を伺えた。

「酒保所 売店・購買部」



酒保所の玄関ポーチ
シンプルだが、大正末期
から昭和初期のデザイン



熊本地震も乗り越えた
コンクリートの打ち込み

陸軍歩兵第十三聯隊 「皇威無窮」の碑

県営山の上団地西入口

「皇威無窮（こういむきゆう）」
「皇軍の威光が末永く続くように」という意味で、第六師団・十三聯隊が外地戦争「熱河作戦」での「満州事変戦勝記念碑」である。亡くなった方の名前も記されていて、このような碑は熊本市内では唯一である。

高さ3m

陸軍歩兵第十三聯隊「正門・脇門」

KKT熊本県民テレビ・産業道路沿い



右門側には十三聯隊遺族会から贈られた「歩兵第十三聯隊」の木製看板が掛けられている。煉瓦造塙は、奥行6m弱で大きく優美な曲線を描いている。左門は人が通るための門。

【取材を終えて】
「戦争遺跡保存全国ネットワーク」の全国運営委員や「空襲・戦跡九州ネットワーク」の事務局長他、県内でも「くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会」の理事等でご活動の高谷先生の「軍都熊本」に戦争遺産を遺そうと願う強いお気持ちが伝わってきた現地学習だった。